

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		研究科造園学専攻		
科目名称	園芸福祉特論Ⅱ						授業形態		講義	
科目コード	642611	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	林 典生								ICT活 用	○
授業概要	造園福祉の成り立ちや目的、役割等を理解した上で、医療・福祉・生涯学習現場で行われている実践や研究事例を検討するとともに、今までの実践例やプログラムを分析したり、プログラムを企画・実施したりする視点を解説する。また、これらの検討・解説したことを踏まえ、植物や緑と触れることによる効果や役割等を理解し、植物や緑の意義について他者にわかりやすく伝えることの知識と能力を習得する。									
関連する科目	同時に園芸福祉特別演習を履修するとともに、履修前に人間植物関係学特論Ⅰ・Ⅱ、園芸福祉特論Ⅰを履修すること。									
授業の進め方 と方法	授業の流れは前半にテーマに関する配布資料等で園芸福祉にかかわる基本概念や基本知識を再確認するために講義を行う、後半は事前に指定した国内外の論文・書籍をまとめてきた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行う。									
授業計画	1. ガイダンス 園芸福祉活動プログラムの考え方 授業の進め方を説明するとともに、資料の読み方に関する講義を行う。 2. 園芸福祉活動プログラムの実際1（高齢者） 高齢者を対象にしたプログラムの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 3. 園芸福祉活動プログラムの実際2（しょうがい者） しょうがい者を対象にしたプログラムの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 4. 園芸福祉活動プログラムの実際3（子ども） 子どもを対象にしたプログラムの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 5. 園芸福祉活動プログラムの実際4（コミュニティ） コミュニティに根差したプログラムの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 6. 園芸福祉活動プログラム作成に必要な視点（コミュニケーション） プログラム実施する上で必要なコミュニケーションの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 7. 園芸福祉活動プログラム作成に必要な視点（ケースマネジメント） プログラム実施する上で必要なケースマネジメントの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 8. 園芸福祉活動プログラム作成に必要な視点（コーディネート） プログラム実施する上で必要なコーディネートの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 9. 園芸福祉活動プログラム作成に必要な視点（リスクマネジメント） プログラム実施する上で必要なリスクマネジメントの注意点を講義するとともに、事前に指定した資料をまとめて発表する。 10. 園芸福祉活動プログラム作成・準備事例演習1 園芸福祉プログラム作成に生かすために今までの流れを振り返り、与えられた事例に基づきプログラムを作成・準備・意見交換する。 11. 園芸福祉活動プログラム実施・振り返り事例演習1 前回作成した事例に基づき作成したプログラムを実施し、振り返り・意見交換を行う。 12. 園芸福祉活動プログラム作成・準備事例演習2 前回実施したプログラムの振り返りを生かして、10回目と異なる事例に基づきプログラムを作成・準備・意見交換する。 13. 園芸福祉活動プログラム実施・振り返り事例演習2 12回目に作成した事例に基づき作成したプログラムを実施し、振り返り・意見交換を行う。 14. 園芸福祉活動プログラム作成・準備事例演習3 2回実施したプログラムの振り返りを生かし、10・12回目と異なる事例に基づきプログラムを作成・準備・意見交換する。 15. 園芸福祉活動プログラム実施・振り返り事例演習3 14回目に作成したテーマに基づき作成したプログラムを実施し、振り返り・意見交換を行う。”									
授業の到達目標	1. 園芸福祉活動など植物や緑の効果を理解している。 2. 植物や緑の福祉的利用について検討できる。 3. 既往の研究や事例から正確な情報を把握できる。 4. 植物や緑を用いた園芸福祉プログラムを提案できる。 5. プログラムを活用できる場づくりが構築できる。									
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・技能と教養-（1）食・緑」の専門分野における高度な知識・技能／1. 知識・技能と教養-（2）未知問題解決のために知識・技能を創造的に活用できる。／2. 人間力・社会性・国際性-（1）豊かな個性を発揮して課題を発見し、探求することができる。／2. 人間力・社会性・国際性-（2）課題を広い視野で捉え、客観的に評価ができる。／2. 人間力・社会性・国際性-（3）主体性を持って多様な人々と協働し、課題解決ができる。／2. 人間力・社会性・国際性-（4）自分の文化や異なる文化を理解でき、文化を超えて交流できる。									
授業時間外学習【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など、主に園芸福祉論に関する資料を授業前に読む。また、園芸療法等の園芸福祉に関する実践活動に関する知見を深め、社会的意義を理解するために、身近な活動現場に赴き、その実態や位置づけなどについて考察を深める。2時間程度必要です。									

授業時間外学習【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など、主に園芸福祉論に関する資料を授業前に読む。授業後に理解が曖昧な時は再度精読する。また、園芸療法等の園芸福祉に関する実践活動に関する知見を深め、社会的意義を理解するために、身近な活動現場に赴き、その実態や位置づけなどについて考察を深める。2時間程度必要です。
課題に対するフィードバック	課題等は確認した後に返却します。必要に応じてコメントします。
評価方法・基準	受講態度や発表、報告物に関して、課題の理解、関係資料の活用、論点の整理、独自の視点について毎回のプレゼンテーションレポート（100%）で評価する。
テキスト	関連書籍及び関連論文
参考書	授業中に紹介するが一例として、以下の書籍を紹介する。 豊原憲子・石神洋一・宮上佳江著（2007）福祉のための農園芸活動 無理せずできる実践マニュアル 農山漁村文化協会（都城キャンパスに蔵書有） 田崎史江（2006）園芸療法. 金芳堂（都城キャンパスに蔵書有）
備考	近畿圏内の複数の医療・保健・福祉・生涯学習の現場での勤務（社会福祉士・精神保健福祉士と中学校・高等学校教員免許に基づいて）やボランティア活動のなかで園芸療法・福祉の実践を行ってきた。現在も都城地区周辺を中心に実践や人材育成を行っており、それに基づいて授業内容に反映させる。